

福岡が誇る伝統的工芸品

古くから海外諸国との交流窓口としての役割を果たしてきた福岡県。そのような地理や風土、歴史的背景から、県内には7つの国指定の伝統的工芸品をはじめとして、多彩な工芸品が数多くあります。

今年は、博多織伝来から777年、久留米耕考案者(井上传)の没後150年という節目の年。福岡県では、全国の伝統的工芸品が一堂に集まる「伝統的工芸品月間国民会議全国大会(KOUGEI EXPO)」を開催し、国内外に日本の伝統文化や工芸品の魅力を広く発信します。

福岡県の国指定伝統的工芸品

経済産業大臣によって定められた要件(主として日常生活で使用、主要工程が手作り、100年以上前から続く技術や技法など)を満たした工芸品

博多織 (生産地:福岡市ほか)

その伝来から今年まで777年もの歴史を持つ博多織。多くの経糸に、緯糸を強く打ちこむことで厚く、張りのある生地に織り上がるのが大きな特徴で、昔から和服や浴衣の帯として愛され続けてきた。江戸時代には、幕府への献上品にも選ばれた特別な織物。



博多人形 (生産地:福岡市ほか)

1600年に筑前福岡藩の藩主に集められた職人による素焼き人形がルーツ。本物の着物のように見える彩色、人形の顔に生命を吹き込む面相といった、高い技術から生まれる繊細さと優雅さ。どこかほっとする和みの表情にも癒される逸品。



上野焼 (生産地:福智町)

江戸時代初期の茶人・小堀遠州が作らせた茶道具を焼いた全国7カ所の窯「遠州七窯」に数えられる茶陶の一つで、当時の茶人たちに大変好まれたという歴史が残っている。特徴は薄作りで軽いことと、多彩なうわぐすりをを用いる点。色彩豊かで独特な風合いも魅力的。



小石原焼 (生産地:東峰村)

イギリスの陶芸家バーナード・リーチに「用の美」と称賛された民陶・小石原焼。独特の文様、土の温かみを感じられる素朴さが現代のライフスタイルになじむこともあり、全国的にファンが多い焼き物の一つ。



小石原の“伝統”と“感謝”を伝えたい



小石原焼カネハ窯
くまがえ ゆうすけ
熊谷 裕介さん

小石原焼は原材料の土をはじめ、うわぐすりとなる木灰やわら灰が農村の暮らしの中で採れることから約350年絶やさずに築いてきた歴史があります。平成29年7月九州北部豪雨で被災しましたが、東峰村と44軒の窯元が団結して10月と5月の民陶祭で元気を発信しました。

近年は福島県の相馬焼との相互支援なども行い、「培ってきた伝統技術で全国とつながり、日本を元気にしたい」と語るのは、カネハ窯の3代目陶芸家であり小石原焼陶器協同組合の理事を務める熊谷裕介さんです。11月の全国大会では普段使いの和食器はもちろん、グラフィックアーティスト・WOKZ22の感性を融合させた作品を発表することで、感謝の気持ちを伝えたいと意気込んでいます!



高度なるくろ技術の一つでもある“飛び鉈”。自然への恩恵と作品への情熱が、指先から伝わる瞬間